（別紙様式）

都道府県番号	3
都道府県名	岩手県

（①□　②■　③□）

Ⅰ．学校名及び規模

釜石市立鵜住居小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	18	
児童数	59	56	57	62	46	47	3	330		

Ⅱ．実践研究の概要（テーマ及び設定の趣旨）

・テーマ

「確かな学力」を身に付け、それを生かそうとする児童の育成を目指して

・テーマ設定の趣旨

本校のＣＲＴ，ＮＲＴのこれまでの結果はほぼ全国平均並みであるが，低学年の頃から個人差が大きく，その差が高学年に進むにつれ拡大していくという傾向がある。

日常の授業の様子からみると，特に学習に対する興味・関心の部分でその差が大きく，学力向上を目指す上での大きな課題となっている。

教材研究を深め，教師の指導力を高めることにより、児童の興味・関心を引き出し、さらに個に応じたきめ細かな指導を実践することにより，児童の学習効果に大きなよい影響を与えることができると考え，本テーマを設定した。

Ⅲ．実践研究の内容について

（ｉ）研究体制の工夫

本年度の工夫・改善点

本年度は，指導体制や指導形態を見直すとともに，教員一人一人の意識改革に取り組んだ。

ア　新学習指導要領をもとにした教材研究による教員一人一人の指導力の向上
教員としての専門性をさらに高め，得意教科・分野を広げる。

イ　指導体制の見直し・・・　教科担任制の導入（第３学年～第６学年）・・・理科
教材研究を深め，児童が自ら学習を深められるような授業の実践にあたる

ウ　指導形態の見直し・・・　少人数指導（第３学年・第５学年　２学級を３つの集団に分けて指導，第４学年・・・１学級を２つの集団に分けて指導）の実施・・・算数科

習熟度別クラス編成など，より効果的な指導形態を探るとともに，児童の実態をふまえ，一人一人の児童の学びの状況に応じた学習を進める。

エ　指導過程の見直し（全学年・・・算数科）

単元や単位時間における発展的･補充的な教材と指導計画の作成を行うとともに，指導に生かすための評価について研究する。

オ　中学校との連携・・・釜石市立釜石東中学校との効果的な連携の在り方を探る

小学校から中学校への学習のスムーズな橋渡しをねらいとし，授業を参観し合ったりアンケート調査を実施したりする。

（ⅱ）実践研究の内容

ア　新学習指導要領をもとにした教材研究による教員一人一人の指導力の向上

校内研究会で学習会を開いたり，参加した学校公開研究会の内容について、校内で伝達講習会を行うようにした。新学習指導要領で，今年度から大きく変わった点などがきちんと理解されるとともに，他校の実践の様子に接することができ，個々の教員が指導力を高めるためのよい刺激になっている。

イ　指導体制の見直し・・・教科担任制の導入（第３学年～第６学年）・・・理科

今年度は，担任間の交換授業による理科の教科担任制に取り組んだ。

	学級担任Ａ	学級担任Ｂ
第３学年	理科・・・・・・	音楽
第４学年	理科・・・・・・	社会
第５学年	理科・・・・・・	家庭科・書写
第６学年	理科・・・・・・	家庭科・図工（１）

学年毎に交換する授業は異なるが，基本的に理科の時間は教科担任が指導を行った。

そのため，担当教員は，釜石東中学校の授業を参観したり，教材研究を深めたりするなどして，自分の専門性を高めるようにし、よりよい授業作りに励んだ。

ウ　指導形態の見直し・・・少人数指導（第３学年・５学年・・・２学級を３つの集団に分けて指導，第４学年・・・１学級を２つの集団に分けて指導）の実施・・・算数科

今年度は，第３学年と第５学年の２クラスを３つに分け，第４学年は１クラスを２つに分け、算数科の少人数指導を行った。

はじめの１単元は「均質の集団」による編成，次の１単元は「作業・計算等の速さ」による編成，それ以降は，レディネステスト・事前テストを経て，児童の自己選択を中心とする習熟度別による編成を行った。

これは，一人一人の習熟の程度に応じることで，基礎・基本の定着や理解を確かなものにすることができるとともに，教材研究によって集団に応じた興味・関心を引き出すための教材の提示ができると考えたためである。

人数の割合は，単元により多少の変化はあるが，第３・５学年は「その単元が得意」なグループが学年の約４０％,「その単元がまずまず得意」なグループが約４０％,「その単元が得意ではない」グループが約２０％である。

第４学年は「その単元が得意・まずまず得意」なグループが約７０％,「その単元が得意ではない」グループが約３０％である。

それぞれのグループで，メンバーや個に応じた教材，ヒントカード，習熟問題等を作成し，活用しながら学習を進めてきている。

エ　指導過程の見直し・・・指導過程の見直し，補充的･発展的な内容を取り入れる。（全学年・・・算数科）

今年度は，単位時間ごとの算数科の評価規準を作成した。

その中には「十分満足できる」「ほぼ満足できる」「努力を要する」以外に，「努力を要する」に該当する児童をどのように「ほぼ満足できる」状況にまで引き上げるかの手立てを盛り込んだ。

また，単位時間の指導過程を見直し，補充的・発展的な内容に一人一人の児童が取り組むことができるよう工夫した。

オ　中学校との連携・・・釜石市立釜石東中学校との効果的な連携の在り方を探る

２校の共通認識である小中連携のねらいは「小学校から中学校への学習のスムーズな橋渡し」である。

お互いに道路を挟んで向かい合う位置にあるため，連携を図るには非常によい環境にある。

今年度は相互に授業参観（算数科，数学科，理科）を実施した。

また，小学校では「中学校へ進学することへの不安」に関するアンケートを行うとともに，中学校では「中学校に入って戸惑ったこと」に関するアンケートを実施し，それらを分析しながらスムーズな橋渡しができるように取り組んでいる。

今後は，交換授業や作品，表現活動の交流など，より幅広い交流を実施する予定である。

（iii）成果と課題

ア　成果

教科担任制により教材研究に深まりが見られ，補充的・発展的な内容を取り入れた個に応じたきめ細かな指導を行うことができるようになってきた。児童の反応からも興味・関心が高まっている様子が多く見られるようになった。

児童の選択による習熟度別グループを編成し、児童一人一人にやる気が芽生えてきている様子が見られ，興味・関心が持続するようになった。（児童アンケート結果による）

また，学級の枠を超えた教員間の協力指導体制が確立するとともに，教材研究についても協力して取り組むようになり，教員一人一人の指導力の向上にもつながっている。

イ　課題

グループごとの進度のずれがあげられる。「その単元が得意ではない児童」のグループは，計画よりも進度が遅れがちであった。

今後は、より効果的な少人数指導を目指し，グループの編成や進度に差が出ない指導の在り方について研究を深めて行きたい。

また，釜石東中学校の先生を招き、ＴＴによる授業などを年間指導計画に位置付けながら，さらに効果的な指導の在り方を探って行きたい。

（iv）成果の普及方策

ア　平成 16 年度学校公開研究会開催の予定

イ　平成 15 年度ホームページ作成の予定